

韓国向け多目的実用衛星 (KOMPSAT-3)

打上げ輸送サービス受注

三菱重工業株式会社

宇宙機器部次長 中村 弘行

三菱重工業 (MHI) は、韓国航空宇宙研究院 (KARI : Korea Aerospace Research Institute) から同国の多目的実用衛星3号機 (KOMPSAT-3 : Korea Multipurpose Satellite-3) の打上げ輸送サービス契約を受注しました。大宮英明社長が1月12日にKARIと韓国で契約調印したもので、MHIが海外顧客から衛星打上げを受注するのは今回が初めてであり、打上げは2011年度の予定です。

多目的実用衛星KOMPSAT-3は、韓国KOMPSAT-1、2の後継機であり、これまで以上に高い解像度を持つ光学機器を搭載し、太陽同期軌道を周回して、地球の地理情報解析に必要な高解像度画像の提供や各種の環境観測などを行います。

MHIは2007年以降、KARIからの提案要請を受け、H-IIAロケットによるKOMPSAT-3の打上げ輸送サービスの提案を行い、2008年10月末には最優先交渉事業者に選定されていましたが、その後の詰めの交渉を経て、今回の契約調印となったものです。

H-IIAロケットは日本の基幹ロケットで、これまでに14機中13機の打上げに成功していま

す。2005年2月の7号機以降は8回連続で成功し、欧米勢に遜色のない高い成功率を誇っています。なお、2009年1月23日には、温室効果ガス観測技術衛星 (GOSAT) をH-IIA 15号機で打上げました。

我が国の衛星打上げ用ロケットの開発は、1975年打上げのN-Iロケットを皮切りに、宇宙開発事業団 (JAXAの前身) を中心として、N-II、H-I、H-II、H-IIAと開発が進められてきました。これらの開発で主要な役割を果たしたMHIは、大型ロケットH-IIAではシステムインテグレータとして開発と生産の責任を担ってきたが、2007年4月以降は、JAXAからの事業移管を受け、MHIが製造から打上げまで一貫してH-IIA衛星打上げ輸送ビジネスを担う体制となっています。今回の受注は、これらの実績と信頼性の高さが評価されたことによるものです。

MHIは海外からの衛星打上げ初受注を弾みとして、国内外の衛星打上げ輸送サービス市場で一層積極的に営業を展開、我が国宇宙産業の将来を切り拓いていきます。